



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏



平成31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として実施いたしました。内容は「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」です。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	全体的によくできており、基礎的な力がついている。話すこと・聞くことの領域はよくできている。特に話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題の正答率は、全国平均を大きく上回っている。一方、書くことの領域は比較的に努力が必要である。特に「情報を分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫」に関する問題において、無回答率や誤答率が高い。
算数	全国平均と同程度である。複数の数量から必要な数量を選び、立式したり計算したりする問題について、正答率が全国平均より上回っている。また、単位量あたりの計算も含めた数量関係の領域においては正答率が高い。図形の性質や構成要素に着目し、他の図形に置き換える問題において、全国平均より正答率が下回っている。また、資料を活用する問題についても努力が必要である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情が高く、自己肯定感も高い。また、地域の行事にも積極的に参加している。 ・話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりすることができていると回答した児童の割合が93%と高い。 ・何事にも意欲的に取り組み、授業で学んだことを他のことに生かすことができていると回答した児童の割合が95%であった。 ・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)に1時間以上勉強していると回答した児童の割合は69%で、全国平均と同程度だが、全くしていないと回答した児童の割合は全国平均より高い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・算数科(とくに図形領域)を中心にユニバーサルデザインを意識し、一人一人の児童に確かな学力をつける授業づくりを継続していきます。
- ・朝の時間の「明日への伝言板」や「暗唱詩集やはた」を活用した全校暗唱を継続し、心豊かな児童の育成に努めます。
- ・ホワイトボードやノートに考えをまとめて練り合う活動を学習に位置づけることによって、自分の考えを説明する力を高めています。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の充実を図り、積極的・計画的に自主学習を行うことができる児童の育成に努めていきます。
- ・中学校の定期考査に合わせて「家庭学習チャレンジ週間」を設定し、中学校と連携して家庭学習に取り組めるようにしています。